

年報 こころの樹



事業報告 2010年度（平成22年度）

社会福祉法人
テレビ朝日福祉文化事業団



こころの樹

命の重さと

命の儚さと

命の大切さと…

辛い日々を乗り越えたからこそ
きっと、強くなれる。

優しさと思いやりと勇気と

みんなの中に育つ

こころの樹に

若葉が茂り、幹が太くなりますように。

ともに生きることができる

ハートウォーミングな社会を目指し

私たちは、活動しています。



はじめに

この度の東日本大震災におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。
被災地の1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災は、国内観測史上最大、世界最大級のマグニチュード9.0を記録し、大津波と大火災、大きな余震、そして福島第1原子力発電所の事故と、被害は東日本全体となる未曾有の大災害となりました。漁船が乗り上げ、瓦礫が散乱し、津波が深い爪痕を残していった廃墟のような町の映像に言葉が失いました。自然の猛威を前に深い悲しみと恐怖を感じ、被災者の方が家族と再会する姿に涙しました。そして暴徒化や略奪などなく、秩序正しく整然と並んで救援物資を受け取る日本人の姿に海外からは賞賛の声があがり、そんな声がまた国民を勇気付けてくれました。

テレビ朝日では、地震発生から約103時間緊急連続報道を行い、内CMなしで74時間放送しました。メディア業界は報道の重要性を認識し注力しています。また、当事業団を通じて被災者を支援する「ドラえもん募金」を実施、多くの方から好意が寄せられました。誠に有難うございます。日本では寄付文化が育たないといわれますが、こうした災害時には多くの方が寄付して下さいます。被災地や避難所の報道があると、そこに救援物資が届くという状況もありました。メディアには人を動かす力があります。災害時だけでなく、福祉や寄付文化が育つためにメディアの果たす役割は大きいといえるでしょう。

今後もテレビ朝日グループ各社、取引先の企業様からのご寄付とともに一般の方にも協力をお願いしていきたくと存じます。皆様のご理解ご協力を得て、放送事業と密接な連携を持ちながら広く福祉事業を積極的に推進するとともに、社会貢献に寄与していく所存です。今後とも、皆様の一層のご支援ご協力をお願いいたします。



社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団は、1977年（昭和52年）8月、NETテレビ（日本教育テレビ）からテレビ朝日（全国朝日放送株式会社）と社名変更したのを機に、より幅広い社会福祉活動をめざして設立されました。事業団は、1951年（昭和26年）6月に施行された社会福祉事業法に基づく第2種社会福祉法人として申請・認可されたもので、事業活動を通じて社会福祉全般の増進にあたることを目的としています。

はじめに	1
------------	---

● 事業報告

Pick up 特集

トゥレヴァン コンチェルト	4
海外生活体験の旅 in シアトル	7
けやき坂カルチャー教室	11

● Part 01 児童福祉

演劇ワークショップ「Re-Action」	14
江戸っ子杯争奪東京都児童福祉施設競技大会・野球の部 ...	16
児童福祉施設文化祭	17
慈彩会展	17
コラム▶「タイガーマスク」からプレゼント!	18
里親大会	19
児童福祉施設職員のためのワークショップ	20
プロ野球ヤクルト戦入場券プレゼント	21
子どもへの暴力防止プロジェクト助成	21
その他の事業	21

● Part 02 高齢者福祉

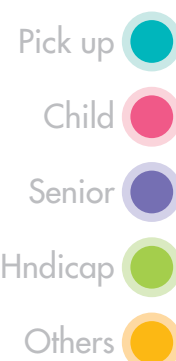
高齢者施設訪問	22
コラム▶ 200 歳!? 生死もわからぬ高齢者	24
クプナ・フラ・フェスティバル	25
国際シニア合唱祭「ゴールデンウエーブ in 横浜」	26
その他の事業	26

● Part 03 心身障害者福祉

心身障害者施設等への設備助成	27
ハンディスキー大会	28
車椅子バスケットボール大会	29
電動車椅子サッカー関東大会	29
コラム▶石川遼が、松坂大輔が、新しい寄付の形！	30
ウィルチェアーラグビー日本選手権大会	31
その他の事業	31
▶一般福祉	
東京都社会福祉大会ほか	33

● Part 04 その他の事業報告等

災害被災者支援・ドラえもん募金報告	34
事業一覧	36
収支報告	37
寄付者のご報告	38
理事・評議員	39
加盟する福祉団体	39
寄付のお願い	40



★ Tulevan Concerto

主催

「トゥレヴァン コンチェルト」は未来のコンサートという意味です。このコンサートは、音楽家をめざしてハンディキャップを克服し、才能を発揮すべく努力を重ねている人たちを支援し、夢や希望を実現させるための「場」や「機会」を設けることを主眼にはじめました。第2回は赤坂区民ホールから芝公園のメルパルクホールに会場を移し、より多くのお客様を招待できるようになりました。



川畠成道さんの弦と前川裕美さんの美声の美しいハーモニー

公演の日は10月末にも関わらず、季節はずれの台風14号が関東地方に上陸するのではないかという荒天になってしまいました。主催者としては観客の障害者の皆さんが安全にお出でになれるかととても心配しましたが、暴風雨の中、予想を大きく上回る800名以上の方々にお越しいただきました。レインコートにリュックを背負い完全防備して白い杖を片手にいらっしゃる目の不自由な方々、車椅子の方や盲導犬を連れている方もいます。会場に着くと皆さん安堵の表情を浮かべていらっしゃいました。そのお顔にどんなに苦労されてお越しになったのかと拝察しました。

オープニングには第1回のスペシャルゲスト、左手のピアニストとして有名な舘野泉さんも駆けつけ、ご挨拶いただきました。

舘野 泉さんから
力強いメッセージ

「僕は演奏生活40周年を迎えた1ヵ月後の2002年1月に脳溢血で倒れ、それから右半身不随になりピアノも弾けなくなりました。それから2年半は身体が動かない状況でしたが、その後に左手で弾くようになって舞台に戻ってきました。『そんなに一杯弾かなくてもいいんですよ。』『少しでもステージに出てくれればいいから』といろいろな方から励ましてもらったんです。面白いのはプロの音楽家は悲観的で、片腕が使えないならばもう演奏できないと諦めてしまうのです。でも一般の方からの言葉がとても力になって左手のピアニストとしてカムバックできました。素晴ら

しい経験でした。左手で演奏することをいろいろな方たちが応援してくれるし、(左手用の)楽譜も出版されるし、日本だけでなくヨーロッパでも演奏するし、そういう事がとても力になっています。片腕だけでもちゃんと世界に通用する音楽ができるということです。去年この会が開かれ、障害を持った演奏家と観客が集まって立派な音楽会が開かれるのはとても素晴らしいことだと思いました。これからもずっと続いてほしいと願っています。」

障害に負けずに活躍する出演者や観客の皆さんへ、舘野さんからの力強いメッセージでした。

コンサートのゲストはヴァイオリニストの川島成道さんと、歌手で作曲家の前川裕美さんです。お二人とも全盲の障害をものともせず、世界を駆け回り活躍されています。さらに早稲田大学と慶応大学の混成楽団ムジークフェライン室内楽団にも協力いただき、華やかな演奏会となりました。川島さんの繊細なヴァイオリンの音色と、可憐な歌姫、前川さんの透き通った美しい歌声の初めてのコラボレーションやそれぞれの素晴らしい演奏に、観客の皆さんは魅了されていました。来場者からは、「家内と二人で行かせて頂きました。久しぶりに心を揺さぶられたような感動を覚えました。」「ハンディを克服して一つの技を極めることは驚嘆に値することですが、前川さんも川島さんともとてもクリアな音楽性を感じます。」「夫婦で心に響く、ふくよかなヴァイオリンの調べを楽しませていただきました。」など感謝の言葉が続々と寄せられました。今回は日本点字図書館にもお声掛けし、目の不自由な方が多数来場されたので点字チラシを用意しました。次回は渋谷 C.C. レモンホールで開催する予定です。

♪コンサート中のお話から、お二人のメッセージ♪

川島成道さん

「これまで体験したことのない歌手の方とのコラボレーションもあり、初めはどうなることかと思いましたが、やってみるととても楽しかったです。前川さんの素晴らしい歌を自分が消さないようにと。普段はソリストとして演奏するので、どちらかというと自己中心的なんで



司会はテレビ朝日 本間智恵アナウンサー



ムジークフェライン室内楽団も加わり華やかなステージ



すが（笑）、競演の際には自分が伴奏するという、そんな気持ちを味わったのでとてもいい経験でした。私も視覚障害があるので、視覚障害にもいろいろな段階があることも知っていただけなら有難いですし、視覚障害が特別なものという意識を持たないで接してほしいと思います。私も視覚障害という意識を持たずに育つことができたことが自分自身にとっても大きな財産だと思っています。」

前川裕美さん

「これから歌うジギルとハイドの『あれは夢』『あんな人が』は、まるで昔の私のような曲になっています。私は段々見えなくなっていっただんですが、以前は見えていたという記憶が残っているので、『昔はあれも見えたなあ』と思い出すと、昔のことが現実ではなく夢だったと思う気持ちになることがあるのです。『あんな人が』は、もし理想の人が私のことを見つけてくれさえすれば魔法のように人生が変わるという歌です。この曲はもう駄目かなと儂い気持ちになっても、いつかこういう人に出会いたいという気持ちだけは持ち続けていようという気持ちになる曲です。」

日時：平成 22 年 10 月 30 日（土） 午後 3 時～5 時

場所：メルパルクホール（港区）

出演：川畠成道、前川裕美、ムジークフェライン室内楽団

主催：テレビ朝日福祉文化事業団

共催：東京六本木ライオンズクラブ、東京原宿ライオンズクラブ

後援：港区、港区教育委員会、（社福）東京都社会福祉協議会

協力：NPO 法人 AVA

運営：障がい者芸術家を支援する会

❖ 川畠成道氏（Narimichi Kawabata） ヴァイオリニスト

1971 年東京生まれ。

視覚障害を負った幼少期にヴァイオリンと出会い、音楽の勉強を始める。桐朋学園大学卒業後、英国王立音楽院へ留学し、97 年首席卒業。現在、英国と日本を拠点にソリストとして精力的な演奏活動を展開している。デビュー当初より音楽活動の傍ら、積極的に国内外でチャリティコンサートを行う。



❖ 前川裕美氏（Yumi Maekawa） 歌手 & 作曲家

3 歳で音楽と出会い、6 歳で作曲を始める。小学校 5 年生のときに網膜色素変性症と診断される。徐々に視力を失う。高校卒業後、ボストンのバークリー音楽大学で作曲・編曲・声楽・ピアノを学び、2003 年帰国。05 年に「第 2 回ゴールドコンサート」にて総合グランプリを受賞。



児童養護施設の高校生対象

★海外生活体験の旅 in シアトル

◎主催

親からの虐待で幼い子どもが亡くなるという痛ましいニュースが後を絶ちません。虐待の被害に遭った子ども達や親の離婚・失業・病気などのために親が養育できない子ども達を受け入れているのが児童養護施設です。事業団ではこうした施設で生活している高校生を対象に、海外異文化体験とともにホームステイで家族のぬくもりを体感してもらう事業を行っています。21年度は新型インフルエンザの流行で中止となりましたが、今回はオレゴン州ポートランドからワシントン州シアトルに行き先を変更して実施しました。これは、高校を卒業すると同時に施設を出て自立しなければならない子ども達に、就職や進学を前に自分の将来を考える機会にしてもらいたいという思いからです。「エメラルドシティー」と呼ばれ美しい自然とともに都会的な部分もあるシアトルにはワシントン大学があり、さらにマイクロソフトやボーイング、スターバックスなどの企業が本拠地を構えています。文化度が高くアメリカで暮らしたい憧れの街として人気があるところです。文化・経済・自然の調和の取れたシアトルは、子ども達にも良い刺激があるのではと考えました。

さらに今回はアメリカで活躍する日本人メジャーリーガーの試合、シアトルマリナーズ対レッドソックスの観戦を盛り込み、テレビ朝日を通じて依頼し、松坂大輔選手と子どもたちとの対面も実現しました。参加者は異国で活躍する松坂選手に、心の持ち方やチームメイトとの付き合い方などを次々質問し丁寧に答えていただきました。また世界最大のボーイング工場やマイクロソフトを見学したり、YMCAで幼児相手にボランティアをしたり、ホストファミリーとのお別れパーティーでは、「和食」「アニメ」「夏祭り」など日本文化について英語で発表したりと充実したプログラムを組み、皆大きな達成感を得られたようです。



マウントレーニアでトレッキング



美しいシアトルでジャンプ!!



お別れパーティでは浴衣姿で日本を紹介



参加者の高校3年の女子は、卒業後の進路に悩んでいましたがこのホームステイがきっかけとなり観光学部への進学を決め大学に見事合格しました。また、ホストファミリーの愛に喚起されて社会福祉系の大学に、この春進学した男子もいます。子どもたちからのこうした報告は主催者としても喜ばしい限りで、将来の進路を決める上でも役立つ貴重な体験をしてもらう有意義な事業となりました。

訪問先：ワシントン州シアトル

日 時：5月 7日(金) 応募締め切り(作文ほか)

5月16日(日) 面接選考 参加者決定

6月13日(日) 結団式

7月22日(木)～30日(金)(シアトル・7泊9日)

9月 4日(土) フォローアップ研修

参加者：高校生 9人(男子2人、女子7人)

(東京、神奈川、埼玉の9児童養護施設)

主 催：テレビ朝日福祉文化事業団、(社福)東京都社会福祉協議会

後 援：(公財)原田積善会

Home Stay Schedule in Seattle

7/22 (木)	成田発→シアトル (DL296 便) シアトル空港着 (同日 午前着) シアトル観光	【ホームステイ①】
7/23 (金)	英語レッスン ボーイング工場見学ツアー セーフコ・フィールド(マリナーズ対レッドソックス戦)観戦 松坂大輔選手と対面	【ホームステイ②】
7/24 (土)	ホストファミリーと一緒に	【ホームステイ③】
7/25 (日)	ホストファミリーと一緒に	【ホームステイ④】
7/26 (月)	英語レッスン チッテンデン水門・フィッシュラダー(魚道)見学	【ホームステイ⑤】
7/27 (火)	マウントレーニアでトレッキング	【ホームステイ⑥】
7/28 (水)	YMCAで児童に日本文化を教えるボランティア 英語レッスン 「お別れパーティー」 日本文化を英語で発表、合唱	【ホームステイ⑦】
7/29 (木)	マイクロソフト見学 シアトル・タコマ空港発→日本 (DL295 便)	【機内】
7/30 (金)	成田空港到着・解散	



ボーイング工場見学



参加者の感想から

春日凌介くん

(参加当時：東京サレジオ学園、都立高校3年生)

初めての海外で、全く知らない人達と一緒に暮らすことは不安でした。何より言葉が通じない事は、今まで経験したことがない苦難になると感じていました。そこで自分から積極的にコミュニケーションを取ったり、たくさんの事に挑戦し、様々なことを学ぶ事が出来るかどうかは、「自分に出来る事はなんでもチャレンジしていく。」という僕の立てた目標への挑戦となりました。自分に出来るだけの力があるなら、それをすべて出して挑戦し、前に進むということが今回の旅で一番僕にとって重要なことだったと思うし、それを実際に行動して出来たことはこれからの自分にとって大きな力になったと思います。

僕を迎えてくれたホストファミリーは、両親と姉・弟の4人家族と犬1匹で家族皆がとても明るく会話の絶えないような人達でした。弟は血の繋がりが無い子どもでしたが、言われなければ全く分からなく、血が繋がっていないことなど意味のないことのようにすごいなと思いました。家族の皆は僕が「YES・NO」で答えられるような質問をたくさんしてくれました。そうやってずっと一緒に話をしてくれた事が僕は物凄く嬉しくて、「この旅での日々を頑張っていこう！」と強く思うことが出来ました。週末の2日間は、僕を本当にたくさんの所へ連れて行ってくれました。海へ出て、フェリーからシアトルを眺めたり、またスペースニードルというとても高い建物から街を一望したり、水族館の次に動物園にも連れて行ってくれました。普段はあまりお肉を食べない一家なのですが、僕のために Red Robin という有名なハンバーガー屋さんにも連れて行ってくれました。噂には聞いていましたが、半端じゃない大きさで本当に驚きました。

とにかく僕はシアトルで見たり聞いたり触ったりする、その全てが人生で初めての

経験のことばかりで、自分の知らない世界で、こんな風にいろんな人が生活しているんだなと自分で実際に見て考えることが出来ました。この経験は日本に帰ってきても、これから先、自分の夢や希望に向かって進んでいく中で、たくさんの人達との出会いをよりよいものにしていけるような経験だったと思います。

海外に行く前は言葉が通じないとい



松坂選手との対面に大感激の春日くん



お別れ会では、和楽器について英語で説明



うことは、自分の考えていることや相手の思っていることが分かり合えないものなんだと僕は思っていました。しかし、僕が何かをしたいと、言葉は通じなくても行動し伝えようとすると、ホストファミリーの皆は「何かを伝えようとしているんだ」といつも気づいてくれ、たくさん僕を助けてくれました。こうして思うと、様々な場面で自分が思っていることを相手に伝える気持ちが大切だと感じました。そしてそれに気づける人になりたいと感じました。この日本で言葉で上手く気持ちを伝えられない人がいたとしたら、僕をいつも助けてくれたホストファミリーのように相手の気持ちを大切に僕は人と接していきたいです。

このシアトルの旅でメジャーリーグベースボールを観戦させてもらったり、あの松坂大輔選手から直接サインボールをもらったり、インタビューをする機会もありました。また今回同行した8人の仲間と様々な経験ができて、たくさんの思い出を重ね、本当に幸せだと思います。

初めての海外旅行で僕は「Thank You」という言葉を一番多く使ったと思います。7日間という短い時間の中で有難うという気持ちをたくさん伝えられたことはとても良かったです。そして日本でもこの「有難う」という言葉を大切にし、人への感謝の気持ちを忘れずにいたいです。

思えば1年前、僕はまだ施設には来ていず、自分の部屋で閉じこもっていました。矛盾しているのですが、何かしなければと思えば思うほど動けなくなっていました。そんな僕が1年後に海外に行くとは自分でも想像も出来ませんでした。人生はこんなにも変わることがあるんだと本当に驚いています。何事も始めてみなければわからない、経験しないと分からないと強く感じました。今後この経験を自分の力にしていけるように努力していきます。

(途中一部省略)

* 春日くんは、シアトルの後、演劇ワークショップ(P14)にも参加、舞台では主役を見事に演じました。高校と施設をこの春卒業し自立、4月から大学の社会福祉系学部へ進学し勉学とアルバイトに励んでいます。

ホストファミリーと緊張の対面



ボランティアで子どもたちと遊ぶ春日くん

六本木で楽しみながら創作活動♪

★けやき坂カルチャー教室

◎主催



このカルチャー教室は、高齢者の皆さんに文化活動を通じて楽しみながら生きがいを見つけ、地域社会とのつながりを保持してもらおうと始めました。会場は六本木ヒルズのテレビ朝日にある多目的スペース「umu」で毎月1度、趣味の講座を開いています。

午後1時、教室のはじめは手話を学習する時間です。「雨が降る」「私はケーキが好き」など日常会話を手話で会話するのですが、手話の表現はとても具体的で興味深いものです。皆さん身体を動かし、口を動かし楽しいひと時になります。こうした時間は当事業団ならではのもので、障害者の方への理解を深める一助になればと考え実施しています。

カルチャー教室は、特殊な加工によって生花のように咲き続ける「プリザーブドフラワー」、粘土を捏ねて人形の形を作り、レースと布を貼り付けて飾って焼く豪華な陶器の「レースドール」、立体的な額装を作る「デコラティブアレンジメント」や、ペンや筆で写経など書くことを楽しむ「書道」、アクセサリーに最適な「アートクレイシルバー」、皿やグラスに絵付けをする「チャイナペイント」のほか、今年は「朗読」も始めました。毎回50～60人が1つのスペースで学ぶという一風変わった教室ですが、次は別の講座を受けてみようなどいろいろ楽しむことができるのも良いようです。また受講生同士も親しくなり、教室後にお茶を楽しんだり旅行に出かけたりと交流が深まっているようです。月1回の教室ですが、お互いに刺激を受けながら創作活動に励んでいらっしやいます。

受講生は現在女性ばかりですが、神奈川、千葉、埼玉からもいらしています。3月11日の地震の時もちょうど教室中で、震度5強の揺れが襲うとガラス張りのホールにはギシギシと大きな音が鳴り響きました。作品を手で押さえ座り込む方も多くみられましたが、皆さん落ち着いて対応されていました。首都圏でもその後交通機関が麻痺し帰宅難民が多く出ました。受講生の皆さんも、バスや徒歩で帰宅しなければならず、高齢の方が多かったので大変心配しました。中には深夜1時すぎにようやく家にたどり着いた方もいらっしやいました。

日時：平成22年度 年10回開催（毎月1回、8月・12月を除く）

講座：レースドール、プリザーブドフラワー、書道、アートクレイシルバー、
デコラティブアレンジメント、チャイナペイント、朗読

場所：テレビ朝日多目的スペース umu（港区）

会費：各材料費とお茶代 講師費用は事業団負担 受講生：50～60人（毎回）



◆生徒さんからひと言



95歳の小林さん。「生きがい」は毛筆ですらすらと仮名文字を綴ること

★小林 良さん（書道）

カルチャー教室に通い始めて10年になると思います。グループに分かれ、いろいろな作品を先生について習って、皆楽しそうに勉強しています。私は毛筆でお習字を教えていただいております。月1回のお教室で顔なじみの方々と会えて会話ができるのがとても楽しみであり、90歳半ばの私の「生きがい」の一つになっています。



お孫さんの容ぼうを人形に描きながら至福のひと時

☆岸 光子さん（レースドール）

教室に通いだしたのは長いのですが主人の介護で中断し、再スタートでレースドールを始めました。細かい仕事で不安でしたが出来上がった時の感動と喜びはなんとも言えません。初作品は孫に似た可愛い人形が焼きあがり、家の玄関で微笑んでいます。次の作品はどんな出来上がりになるのか楽しみです。



生きる喜びを花に、作品作りに没頭する吉原さん

★吉原裕子さん（プリザーブドフラワー）

デパートや花屋さんの店頭飾ってあるプリザーブドフラワーを見て、こんなのが自分で作ることができたらいいなと思っていました。そんな時、カルチャー教室を知り参加して2年が過ぎました。バラやその他の花材を使って出来上がった時の喜びと満足感、それは何度味わっても尽きることはありません。毎月のテーマにあわせて出来上がった作品を手にする時「今月も元気で参加できてよかった」としみじみ感じます。

雑事を忘れ作品に没頭するひとときは楽しみのひとつになっており、作品をプレゼントした時の友人の喜ぶ姿も最高です。



☆岩品鈴子さん（デコラティブアレンジメント）

はじめて作品に出会った時「これどうなっているの？」以来、月1回の稽古日に先生の作品を見るたびに同じ言葉を発しています。絵葉書、写真を切り貼り重ねてゆき、立体的に作り上げてゆく技法です。題材は街の風景、季節の行事、楽器、花、木、童話、何でも作品に出来ます。材料に違いはないのですが出来上がりは皆驚くほど様々。完成させたつもりでも後日手を加えたりして欲しい？を貼り重ねていっています。作品を飾るのも楽しみです。友人に差し上げて楽しんでもらいたいという気持ちが湧いてきます。



立体感の魅力にとりつかれて
完成後を楽しみに紙を切り貼り

★針木雪峯さん（アートクレイシルバー）

70歳の手習いで、銀の粘土をこねてペンダント、指輪、ブローチ等を作る教室に入りました。一見簡単に見えたこの粘土は曲者で、もたもたしているとすぐ乾いてボロボロになってしまいます。出来上がった作品は自分の考えていたものとは程遠いものだった。最近では、やっと世界にひとつしかない手作りのペンダントが友人の胸に、そして私の胸に優しく光っている。月1回の教室はほのぼのとした「生きがい」を私に与えてくれている。来月は何を作ろうかなと心待ちにしている。



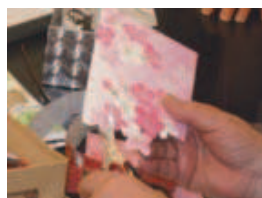
完成した時の胸の光を想像しながらブローチを磨く針木さん

☆岡田資子さん（チャイナペイント）

明るいガラス張りのホールにはそれぞれの生徒さんがテーブルについている。手話が終わると創作の始まり、先生からはアメリカ、イギリスで学ばれたマイセンの伝統的な手法を教えてもらっている。2回のお稽古で一つの作品が出来上がる。ミニマイセンだ。金色に縁取りをつけて出来た作品は宝物。3時のおやつをいただきながら、ひと時の夢中になれる時間を共有し、作品も増えて月1回の教室はとても楽しみです。



マイセンの手法で皿に丁寧に絵付けし、完成品は宝物に



児童福祉

児童養護施設の中高校生対象

■第4回 演劇ワークショップ「Re-Action」

◎ 主催

児童養護施設で生活する中高生を対象にした演劇ワークショップは、本年度で4回目を迎え、当事業団の単独主催となりました。講師陣も一新し、コーディネーターにテレビドラマの演出を数多く手がけている元テレビ朝日の中野昌宏さん、さらに講師として、役者で吉本興業の舞台演出を手がける三橋潔さん、役者でダンスに秀でている南陽介さんをお願いしました。

様々な事情で児童養護施設で暮らす子ども達は自信がなく、コミュニケーション能力が欠如していることが多くあります。この演劇ワークショップでは人とのコミュニケーションの基本である「相手の目を見てボールを渡す、言葉を渡す」ことから始め、人の気持ちを感じることを学んでいきました。またダンスも取り入れ、子ども達は身体を大きく動かして自分を表現することを学びます。

10月9日から11月14日まで合宿をまじえて9日間のワークショップには、高校生11人と中学生3人、男子5人、女子9人の合計14人が集まりました。初めてダンスや演劇をする子どもも多く、最初はかなり緊張した様子でしたが、ワークショップで大きな声を出し、身体を動かすうちに大分慣れて、子ども達同士も仲良くなっていきました。片道3時間半かけて毎週六本木のテレビ朝日に通う子どももいましたが、「皆が頑張っているから自分も負けられない」と、皆休むことなく通いました。ダンスが出来る子が出来ない子に手取り足取り教える光景や、休憩時間にも音楽をかけてダンスの練習に励む姿がしばしば見られ、



児童劇「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」
転校生とクラスがダンスでひとつになっていくストーリー



揃いの制服でダンスするチーム

その熱心さに講師も主催者もとても嬉しく感じました。三橋さんは短期間で子どもたちそれぞれのキャラクターを把握してオリジナルの脚本「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE（ひとは皆のために、皆はひとりのために）」を書き下ろしてくれたので、子どもたちも役に入りやすかったようです。



松竹衣裳さんにもご協力いただき、実際にテレビドラマで使っていた学生服にリボンなどでアレンジを加えてくださり、お借りすることができました。また美容室 SHIN の方に文化祭当日のヘアメイクを手伝っていただきました。皆さんの協力の下、子どもたちも舞台に向けて気持ちを高めていきました。皆の努力の成果は児童福祉施設文化祭（p17 参照）でしっかりと発揮され、舞台は大成功。輝く笑顔で子ども達は達成感を感じていました。わずか9日間の練習だけで大きな舞台に立ち、お互いに協力してチームとして成功を収める姿に子どもたちの大きな可能性を感じることができました。

施設の方からも「積極的になった」「自分の言葉できちんと話すようになった」「いつもひとりでいたのが、友人との集まりに出かけるようになった」「施設内でダンスのチームをつくった」などのご報告をいただきました。コミュニケーション力が確実にアップし、自信がついたことでやる気が出てきたのだと思います。「来年も必ず参加するからね」という子どもたちの言葉が満足度が高い事業だったことを実感させてくれました。

日時：平成22年10月9日(土)～11日(月)、17日(日)、24日(日)、31日(日)
11月7日(日)、13日(土)～14日(日)、12月18日(土)

場所：こどもの国(横浜市)、テレビ朝日(港区)、明治神宮会館(渋谷区)
国立青少年センター(渋谷区)

主催：テレビ朝日福祉文化事業団

後援：東京都社会福祉協議会、埼玉県社会福祉協議会、千葉県社会福祉協議会
神奈川県社会福祉協議会、茨城県社会福祉協議会、
栃木県社会福祉協議会、群馬県社会福祉協議会、 全て(社福)

講師：中野昌宏氏(演出家・監督・元テレビ朝日プロデューサー)
：三橋潔氏(役者・演出家)
：南陽介氏(役者・振付け師)

カウンセラー：野村嘉之氏

生活指導員：大原岳司氏(児童養護施設カルテット)
服部環氏(児童養護施設クリスマスヴィレッジ)
小川菜穂子氏、塩原友紀氏(児童養護施設至城学園)



舞台の1シーン。転校生と担任の先生



■江戸っ子杯争奪東京都児童福祉施設競技大会 野球の部 2010 主催

気象庁が記録を開始してからの 113 年間で最も暑い夏となった 2010 年夏。その真夏の 2 日間に、江戸っ子杯争奪をかけて恒例の野球大会が行われました。この江戸っ子杯は東京都児童養護施設の子どもたちのスポーツ交流の場として、1975 年にスタートしました。1983 年の大会には長嶋茂雄さんがお越しになり、野球教室を開いたり野球用品のプレゼントをいただきました。さらに優勝カップとして「長嶋茂雄杯」を贈呈していただき、現在まで大切に伝えられています。

本年度の開会式にはゲストに元千葉ロッテマリーンズの「魂のエース」と呼ばれたジョニー黒木さんをお迎えしました。「自分を信じて、チームを信じて白球を追いかけてください。素晴らしい大人になること、成長することを期待します」と黒木さんは子ども達を応援する力強い挨拶と始球式を行いました。

決勝戦は前日の猛暑と打って変わりあいにくの雨模様となりましたが、熱戦の末、目黒若葉寮が優勝しました。事業団では、優勝チーム他上位チームにグローブ、そして参加者全員に T シャツをプレゼントしました。

日 時：平成 22 年 7 月 28 日（水）～ 29 日（木）

場 所：府中市郷土の森第一野球場（東京都府中市）

参加者：児童養護施設の小中学生 約 150 人

主 催：（社福）東京都社会福祉協議会児童部会、テレビ朝日福祉文化事業団

後 援：東京都、（財）毎日新聞東京社会事業団、（財）報知社会福祉事業団



ジョニー黒木さんによる始球式

酷暑の中、白球を追いかける
子どもたち

●第 60 回 児童福祉施設文化祭

🌸🌸 後援・助成

1951 年から開催されている児童福祉施設文化祭も本年度で 60 回目を迎えました。この文化祭は児童の文化面、情操面の指導を強化推進することによって、集団生活環境にある児童の持つ能力を生かし、豊かな心情を養い育てることを目的として毎年開催されています。器楽の合奏や合唱、日舞、洋舞に児童劇など日頃の練習の成果を明治神宮会館の広いステージで発表しました。2000 人近く入ることの出来る会場には施設の児童や関係者のほか、出演者の親族や学校の友人などが大勢応援に詰めかけ、ステージを見守りました。専門家からなる審査員からは、「技術・基礎をもう少し勉強して目標を高くしましょう」といった励ましの言葉や、「澁瀬としていてとても良い」など講評をもらい、子どもたちも発奮していました。当事業団主催の演劇ワークショップもこの文化祭を発表の場とさせていただきました。



日時：平成 22 年 11 月 14 日（日）

場所：明治神宮会館（渋谷区）

主催：（財）日本民生文化協会

後援：厚生労働省、東京都、テレビ朝日福祉文化事業団 他

●第 52 回 慈彩会展

🌸🌸 後援・助成

1958 年に結成された「慈彩会」では福祉施設に絵を贈る意義ある文化活動を行い、今回で 52 回目を迎えました。これまでに全国の 3,356 の福祉施設に作品 4,757 点、助成金 8,700 万円を贈っています。本年度も常陸宮妃殿下をはじめ、芸術家、政財官界、さらに日頃趣味として絵画、書道、工芸などに親しんでいる各界から多くの方々が参加しました。

日時：平成 22 年 7 月 14 日（水）～ 19 日（月）

場所：日本橋三越本店（中央区）

主催：慈彩会

後援：厚生労働省、東京都、（財）日本民生文化協会、テレビ朝日福祉文化事業団





「タイガーマスク」からプレゼント！ 児童養護施設に注目が！！

2010年暮れのクリスマスから始まり、タイガーマスクの主人公、伊達直人を名乗る複数の人からランドセルなどが各地の児童養護施設に贈られるサプライズが続きました。アニメの中の「伊達直人」は自分がタイガーマスクであることを隠して自分が育った児童養護施設へ寄付を続けていました。このプレゼントの一件が報道されると各地の「伊達直人」さんが児童施設に現れる善意の輪が広がり、児童養護施設に注目が集まるようになりました。施設では、贈り物を喜ぶ一方で、ランドセルが対象児童以上に集まってしまったり、食べ物や古着を送られて困惑するケースもありました。古着などには、「私たちは恵んでもらわなければいけないのかと悲しくなった」と話す児童もいました。児童養護施設の実情も報道されるようになることで、現状やニーズにあった品物が贈られ、さらに輪が広がり継続されることを願います。

一方、菅直人首相は小学生までの「児童手当」から中学3年までの「子ども手当て」を2010年度に新設、月額13,000円支給を実施しました。児童養護施設で暮らす子どもの場合はどうなっているのでしょうか。施設の子どもの過半数は虐待されたことで施設に入所しています。その一部は親から強制的に引き離して入所しているため、住民票の移動もせず、親に子どもの居場所をわからないようにしています。子どもを連れ戻しに来る可能性があるためです。こうしたケースでは子ども手当ては親が市町村に申請し引き出し、また子どもの所在がわかる場合でも親が面会をしている実績があれば親に支給したとのこと。いずれも親が自分のために使ってしまったのだろうと施設職員はつぶやいていました。親がいないなどで対象から外れた施設児童に対しては、「子ども手当て」相当額が「安心こども基金」から支給されました。このお金を、自立する時のために貯金した施設もあります。高校を卒業すると施設を出なければならない、学費と生活費のためにアルバイトをするうちに中退してしまうことも少なくないためです。経済不況のために返却義務のない奨学金や無利子の奨学金が減少しています。

誰のための、何のための「子ども手当て」なのか。未来を担う子どもたちが十分な教育を受けるために、実情を見極めた「生きたお金」の使い方が求められています。

全国大会は平城遷都 1300 年記念で賑わう奈良で、故高松宮妃殿下の御歌を雅楽の音色に乗せて吟詠する趣ある開会式で幕開けし、まず功績顕著な里親や里親制度の普及発展を強力に推し進めた団体などを表彰しました。



基調講演では「里親という生き方」をテーマに森田ゆり氏（エンパワメント・センター主宰）が講義し、Dr. ウィニコットの「Good Enough Mother」という言葉を里親の皆さんに贈りました。これは、完全な母親を目指すのではなく、ほど良い母親になりましょうという様な意味で、完璧な親を目指す、結果児童にも里親にもストレスがたまってしまい上手くいかない事があるという自制を促す言葉です。

この他、全国里親会親権問題検討委員会からは里親里子が直面している「親権の制限」に関する問題や「未成年後見の活用」など「里親の親権」について議論されました。「親権」には子どもの世話や教育をする監護権、財産管理権、しつけをする懲戒権、居住指定権や職業許可権などが含まれています。里親には親権がないため、児童相談所を通じて実の親に許諾を求めなければならないことが多く重要な議題となりました。（虐待の親の場合に最長 2 年間親権停止できるようにする民法改正案が平成 23 年度の通常国会に提出される予定です。）

その他、厚生労働省雇用均等・児童家庭局からは、虐待を受けたり障害等で特別に配慮が必要な児童が増加していること、またこれら児童の進学・就職・自立が課題になっていることに対して、家庭的な養護を推進するために、施設の小規模化や里親への委託を進めていることが説明されました。

日時：平成 22 年 11 月 7 日（日）

場所：天理市民会館（奈良県）

主催：厚生労働省、奈良県

（財）全国里親会、奈良県里親会

（社福）NHK 厚生文化事業団

（公財）資生堂社会福祉事業財団

テレビ朝日福祉文化事業団

～厚生労働省のお話から～

里親への委託児童数 3,870 人

（平成 20 年度末現在）

乳児院入所児童数 3,124 人

児童養護施設入所児童数 30,695 人

母子生活支援施設入所母子数 10,367 人

（平成 20 年 10 月 1 日現在）

●第 56 回関東甲信越静 里親研究協議会かわさき大会

🌸 後援名義

日時：平成 22 年 7 月 11 日（日） 場所：川崎日航ホテル（川崎市）

主催：川崎市、（財）全国里親会、関東甲信越静里親研究協議会 他





全国 575 の児童養護施設では約 3 万人の子どもたちが生活しています。そして今、入所理由の半数以上は親からの虐待によるものとなってしまいました。心が傷ついた子どもたちは施設で暮らす中で、ルールを守ることができなかつたり、職員に対して暴言や暴行を振るうことも少なくありません。そんな時どうすれば良いのかを指導するのがこのワークショップです。サンフランシスコ大学名誉教授の田中万里子博士に講師をお願いして本年度 25 回目を迎えました。関東だけでなく京都の施設職員も含めて男女計 25 名、若手からベテランまで、また転職して職員になったばかりの方などが集まりワークショップに臨みました。今回は出来るだけ実践での悩みを解決できるようにということで、参加者が日々子どもと対峙するなかでどう対応すればいいのか悩んでいるケースを取り上げてワークショップを行い、より成果が高いものとなりました。

ワークショップは、コミュニケーションの原理からはじまり、記憶の構造や効果的なコミュニケーション、目の動きでどのチャンネルを使っているかを見極める「NLP（神経言語）コミュニケーション」。リスニングスキルとしては、相手の話の主語を明確にして別の言葉で言い直す「パラフレーズ」、相手の気持ちを汲む「リフレクション」など、実践を交えて行いました。虐待には身体的虐待、育児放棄（ネグレクト）、性的虐待、心理的虐待がありますが、特にネグレクトで入所している子ども達は親から言葉をかけてもらっていないため、自分の感情を表現する言葉を知らないことが多く、そのために暴力を振るうことが多いようです。ついつい行動を叱りがちですが、その行動をするのには訳があるので、子どもに対しては、なぜ腹が立っているのか、その理由を聞き、共感してあげることで、すると子どもが次第に落ち着くので、その後にはどうすればいいのか子どもたちの内部にある答えを聞き出してあげることが大切だとのことでした。

いじめ問題や不登校。盗癖、暴力、暴言。多忙な職場ですが子どもたちに丁寧に向き合うことで言動は改善されるはずです。子どもは親の代わりに職員を見本に育つことになる、その姿を全て見られている施設職員の皆さんは、子どもの人生に関わる仕事の責任の重さを改めて感じていました。

日時：平成 23 年 1 月 25 日（火）～ 26 日（水）
 場所：ザ・クレストホテル立川（東京都立川市）
 主催：（社福）至誠学園立川
 テレビ朝日福祉文化事業団



■プロ野球ヤクルト戦入場券プレゼント

🎯主催

神宮球場で行われるプロ野球ヤクルト戦のBOX席の入場券を、(社福)東京都社会福祉協議会 東京善意銀行を通じて毎年プレゼントしています。本年度は、文京区小石川福祉作業所、江戸川区立みんなの家など東京都内の知的障害者や精神障害者の施設など 58 施設に 232 枚をプレゼントしました。

●子どもへの暴力防止プロジェクト助成

🌸🌸後援・助成

子どもへの暴力や虐待の防止・啓発活動に携わる団体やグループが行うプロジェクトへの助成事業は朝日新聞社・(社福)朝日新聞厚生文化事業団の主催で3年目になります。今回は、21団体に総額4,017万円を助成、3年間で総計62団体に1億4,522万円を助成したことになります。



カルタを取りに猛ダッシュ

後援：厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団

★その他の事業

●こどもの国のお正月行事「ジャンボカルタ取り大会」「どんど焼き」 🌸 助成

日時：平成23年1月2日(日)、3日(月)、9日(日) 場所：こどもの国(横浜市)

●第60回 社会を明るくする運動「匠に学ぶワークショップ in 東京藝術大学」 🌸🌸 後援名義

日時：平成22年7月31日(土) 場所：東京藝術大学(台東区)

主催：東京藝術大学、「社会を明るくする運動」中央推進委員会 他

共催：台東区、台東区保護司会、台東区更生保護女性会

●自立援助ホーム「憩いの家」バザー

🌸🌸 後援名義

日時：平成22年12月17日(金)～25日(土) 場所：日本橋高島屋(中央区)

●日本児童養護実践学会 第3回研究大会

🌸🌸 後援名義

日時：平成23年2月12日(土)、13日(日) 場所：昭和女子大学(新宿区)

●第4回「家族週間」子育て童謡コンサート

🌸🌸 後援名義

日時：平成22年11月12日(金) 場所：ルネこだいら(東京都小平市)

●子ども芸術ふれあい事業「アートアニメーションフェスティバル」 🌸🌸 後援・助成

日時：平成22年11月6日(土) 場所：カフェレストランありすの杜(港区)

高齢者福祉

■高齢者施設訪問

◎主催

特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの高齢者施設をプロの演歌歌手、オペラ歌手、ボランティアグループの皆さんと訪ね、お年寄りの皆さんに楽しい時間を過ごしていただく施設訪問。昭和62年に始めてから24年、本年度は12の施設を訪問し合計127回となりました。高齢者の皆様は一緒に手拍子をしながら、歌い、笑い、時に涙し、全身で喜びを表現してくれます。本年度は新たにメイクアップ講習も行いました。普段は素顔のままで過ごしている高齢者の皆さんが、メイクをしてもらおうと自然と笑みがこぼれ、表情も豊かになります。最後に華やいだ気持ちの笑顔の写真を額に入れてプレゼントしとても喜ばれました。

- ①日 時：平成22年6月16日(水)
場 所：デイサービス玉川学園(東京都町田市)
ゲスト：ユキ今村(メイクアドバイザー)

- ②日 時：平成22年8月4日(水)
場 所：大井苑(埼玉県ふじみ野市)
ゲスト：早川侑志(タレント)
三浦きよし&ナインシックス
(ボランティアグループ)



メイクの前には軽くマッサージ
気持ち良さそうなお年寄り

- ③日 時：平成22年9月15日(水)
場 所：サンフレンズ善福寺(杉並区)
ゲスト：ユキ今村(メイクアドバイザー)



- ④日 時：平成22年9月19日(日)
場 所：暖心苑(江戸川区)
ゲスト：恵り香(歌手)



まっ赤な
バラの花束で
恵り香さんを
迎える方も

- ⑤日 時：平成22年10月29日(金)
場 所：アトリエ村(豊島区)
ゲスト：山田大輔、山田昌子(オペラ歌手)

- ⑥日 時：平成 22 年 11 月 14 日 (日)
場 所：池袋えびすの郷 (豊島区)
ゲスト：八波一起 (タレント)
三浦きよし&ナインシックス
(ボランティアグループ)



「脱線トリオ」の父・八波むと志さんの話で沸かせる八波一起さん

- ⑦日 時：平成 22 年 11 月 16 日 (火)
場 所：あやめの苑・代々木 (渋谷区)
ゲスト：こまどり姉妹 (歌手)

- ⑧日 時：平成 22 年 12 月 9 日 (木)
場 所：友愛ホーム (世田谷区)
ゲスト：恵り香 (歌手)



- ⑨日 時：平成 22 年 12 月 24 日 (金)
場 所：西麻布ベル (港区)
ゲスト：山田大輔、山田昌子 (オペラ歌手)



こまどり姉妹は華やかな振り袖姿

- ⑩日 時：平成 23 年 1 月 20 日 (木)
場 所：たちばな高齢者在宅サービスセンター (墨田区)
ゲスト：ユキ今村 (メイクアドバイザー)

- ⑪日 時：平成 23 年 1 月 24 日 (月)
場 所：立正たちばなホーム (埼玉県熊谷市)
ゲスト：こまどり姉妹 (歌手)

- ⑫日 時：平成 23 年 2 月 16 日 (水)
場 所：町田 花美郷 (東京都町田市)
ゲスト：長山浩子 (フリーアナウンサー)
町田草笛の会 (ボランティアグループ)



クリスマスソングを唱う山田親子

- ⑬日 時：平成 23 年 3 月 28 日 (月)
場 所：世田谷区立きたざわ苑 (世田谷区)
ゲスト：三浦きよし&ナインシックス
(ボランティアグループ)
※東日本大震災のため延期



ムードコーラスの三浦きよし&ナインシックスはまっ白なスーツにシルクハットで



200 歳!? 生死も分からぬ高齢者

「文化7年（1810年）生まれ、200歳の男性が長崎県に!？」2010年は、江戸時代生まれの超高齢者の存在があちらこちらで発覚する年となりました。死亡届けが提出されないと戸籍を抹消することができないのですが、戸籍上多くの超高齢者が存在することには驚きました。そんな中、親族がいるにも関わらず所在不明になっているケースもあり孤独な高齢者の実情が明らかになりました。また子供や孫が年金受給を継続したいがために死亡届を提出せず、遺体がミイラ化して発見されるという悪質な年金不正受給事件も明るみになりました。年金や敬老の日のお祝い等は住民登録に基づいて行われるので、家族は死亡届けを出さなかったわけです。役所の怠慢もあるかもしれませんが、病気などを理由に本人との対面を拒否されたケースも散見されました。

高齢者の孤独死の現実も明らかになりました。未婚、離婚、伴侶の死、そして子どもがいない場合の孤独死は想像の範疇ですが、家族がいるのに孤独死となるのはやるせない気持ちになります。家を大切にしてきた日本で、家族の形は急速に変わりつつあります。子どもに世話をかけたくないと遠慮する老親。いつのまにか音信不通になってしまったというのです。また相続税に苦しめられた高齢のお嬢様姉妹が餓死した気の毒なニュースや老親の介護に疲れて親を手にかけるという痛ましい事件も度々起きています。親の介護のために職を失い、あるいは結婚を諦めるという事例も多いのか、親と同居していたのは独身無職の子ども（40代～60代）であるケースが多いように感じました。

狭い部屋で老親と中高年の子どもが向き合って暮らすことには閉塞感が漂います。親を施設に入れたくても満杯などで面倒を見ることになるのでしょうが、介護保険制度を上手く活用し、社会との接点を途切れさせない形での介護をすることが望ましいでしょう。大家族時代は介護の負担を家族で分担することができましたが、少子化の今、家族での介護には限界があります。

災害後の片付けはもちろん大雪での雪下ろし等、ひとりでは難しいことでも助け合うことで乗り越えられるでしょう。人と人とがつながり絆が生まれます。震災後の今だからこそ、地域で支えあい、声を掛け合う必要に改めて気づいたのではないのでしょうか。

■第12回 クプナ・フラ・フェスティバル

共催

1999年国連が提唱した国際高齢者年記念事業としてスタートした「クプナ・フラ・フェスティバル」も、本年度で12回を迎え、会場を中野サンプラザホールに移し、2日間の日程で開催しました。

参加者のクプナ（シニア）の方々の中には80歳を超える方も多く、日頃の練習の成果をこの日にかけ、大熱演されました。指先から爪先まで神経を使い、細やかな動きで表現するフラ。ゆったり優雅に踊る姿とウクレレや太鼓の、時にゆったり、時に激しく鳴り響くハワイアンに観客の皆さんも日頃の忙しさを忘れ、悠久のひと時を過ごしたようです。フラの見所の一つ、曲目に合わせた色とりどりの衣装の素晴らしさも見逃せません。クプナの方々もレイを胸に色々な衣装を着るのが楽しみな様でした。各地で指導している27名のグループ代表者にハワイ州知事から感謝状が贈られました。

日時：平成22年6月25日（金）、26日（土）

場所：中野サンプラザホール（中野区）

主催：クプナ・フラ・フェスティバル運営委員会

共催：（財）日本チャリティ協会、テレビ朝日福祉文化事業団

後援：東京都、（財）全国老人クラブ連合会、（社）東京都老人クラブ連合会
ハワイ州、ハワイ州観光局



●第3回 国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」 🌸🌿 後援・助成

「いつまでも健康で生きがいのある人生」 ゴールデンエイジの仲間たちの輪を合唱という大きな響きにして、国際都市に相応しい横浜から世界に発信しようという国際シニア合唱祭が開催されました。この祭典は、歌うのも裏で支えるのも高齢者です。地元横浜市をはじめ、岩手県や滋賀県など 74 のシニア合唱団、延べ 2700 名が参加しました。

表彰式では「ほほえみ賞」「いきいき賞」「うるわし賞」「すこやか賞」などの各賞が決定し、審査員から「素晴らしい。温かい心をいただいた。愛情を感じた。」「みんなの歌声がみんなを元気にさせてくれる」の言葉が贈られました。

日 時：平成 22 年 4 月 13 日（火）、14 日（水）

場 所：横浜みなとみらいホール（横浜市）

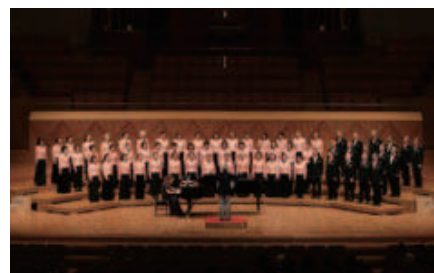
主 催：ゴールデンウェーブ開催委員会

横浜みなとみらいホール

特別後援：テレビ朝日福祉文化事業団

（社福）朝日新聞厚生文化事業団

後 援：神奈川県、横浜市、（社）全日本合唱連盟 他



★その他の事業

●ファミリー童謡チャリティコンサート

🌸🌿 後援・助成

①日時：平成 22 年 7 月 3 日（土）

場所：東大和市民会館ハミングホール（東京都東大和市）

出演：山田大輔（テノール）、山田昌子（ソプラノ）他

主催：ポポロ（日本と世界の愛唱歌をうたう会）

②日時：平成 23 年 3 月 20 日（日）

場所：ルネこだいら（東京都小平市）

※東日本大震災のため中止



●第31回 MC コンテスト グランプリ本選大会

🌸🌿 後援名義

日時：平成 22 年 9 月 12 日（日）

場所：中野サンプラザホール（中野区）

主催：（株）MC 音楽センター

心身障害者福祉

■ 心身障害者施設等への設備助成

✻ 助成

資金不足や公的援助では十分とはいえない心身障害者の小規模共同作業所等に対し、施設の運営に必要な器具、備品、設備を1施設20万円以内で助成しています。本年度は、次の13施設に助成を実施しました。

1	作業用照明器具	地域作業所 ワークショップハーモニー	(東京都町田市)
2	職業用ミシン	地域活動支援センター フレンド	(東京都豊島区)
3	冷蔵庫	しいの木会・シーモック	(千葉県市原市)
4	耕運機	障がい者就労・生活さぼーと ピース	(千葉県四街道市)
5	三輪自転車	地域活動支援センター すずらん	(千葉県八千代市)
6	足踏み式缶つぶし機	デイケア施設 オアシス作業所	(埼玉県狭山市)
7	農作業用アルミ台車	障害者就労継続事業所 大地の郷	(埼玉県吉見町)
8	名刺印刷機(ポインター)	障害者地域作業所 サポート湘南	(神奈川県平塚市)
9	レザーチェア 16脚	障害者地域作業所 工房小野橋	(神奈川県厚木市)
10	冷蔵庫	長柄地域の障害児者を支える会・はっぴいマウス	(千葉県長柄町)
11	作業机	福祉作業所 ひばり園	(埼玉県松伏町)
12	真空パック機	デイケア グリーンフィンガーズ	(埼玉県浦和市)
13	冷蔵庫	デイケア施設 クローバー	(埼玉県南埼玉郡白岡町)



新しいミシンは地厚な布地もスイスイ小物作りに精がでます



耕運機で土を耕し、美味しい野菜作り



知的障がい者がメール便配達に使う三輪自転車は安定感抜群!

■第 34 回 ハンディスキー親善大会

◎ 主催

オーストリアの武官テオドール・フォン・レルヒ氏が 1910 年、日本に初めて本格的なスキーを持ち込み指導してから 100 年を迎えました。障がい者が楽しめるアウトリガースキーは 1965 年、アメリカのコリン・S・カウドウェル氏が持ち込みました。そしてこの「ハンディスキー親善大会」は 1978 年に開始し、34 回目となりました。身体障がい者と健常者がスキー競技を楽しみながら親交を深めることで、心身ともに障害を克服する意欲を養い、豊かな生活の向上を図ってもらおうと毎年開催しています。当事業団は初回から主催しています。

今回は例年にない大雪と強風の中、全国から 65 人の選手が参加。開会式では、地元広島県代表の仁井谷幸治選手が元気に選手宣誓しました。コースは全長 800 m、高低差 150 m、最大斜度 25 度、旗門数 23 です。ハンディスキー大会は、タイムレースですが、速さを競うのではなく、コースを 2 回滑ってその時間差が少ないほど成績が良いという競技です。下肢が不自由な方は「アウトリガー」や「チェアスキー」で、目の不自由な方は介助者の誘導で滑る「ブラインドスキー」で、上級、中級、初級に分れタイムを競います。上級クラスの優勝者は 2 回の滑走タイムが僅か 0.6 秒差というツワモノでした。



日時：平成 23 年 1 月 28 日（金）～ 30 日（日）

場所：ひろしま県民の森スキー場
（広島県庄原市）

主催：日本身体障害者スキー協会
テレビ朝日福祉文化事業団

後援：広島県、広島県教育委員会、庄原市、
広島ホームテレビ 他

●第 40 回 全国身体障害者スキー大会

🌸🌸 後援・助成

日時：平成 23 年 2 月 24 日（木）～ 26 日（土）

場所：たざわ湖スキー場（秋田県仙北市）

主催：（財）日本障害者スポーツ協会、日本身体障害者スキー協会 他

●第 26 回 身体障害者スキー大会関東大会

🌸🌸 後援・助成

日時：平成 23 年 3 月 11 日（金）～ 13 日（日）

場所：丸沼高原スキー場（群馬県片品村） 主催：日本身体障害者スキー協会 他

※東日本大震災のため中止（助成金は準備・連絡費用等に充当）

■第33回車椅子バスケットボール秋季大会

🌸🌸 主催・助成

日時：平成22年10月3日(日)

場所：馬入ふれあい公園ひらつかアリーナ(神奈川県平塚市)

主催：日本車椅子バスケットボール連盟

テレビ朝日福祉文化事業団

協力：(社福)平塚市社会福祉協議会、平塚バスケットボール協会



内閣総理大臣杯争奪

●第39回車椅子バスケットボール日本選手権大会🌸🌸 後援・助成

日時：平成22年5月3日(月)～5日(水)

場所：東京体育館(渋谷区)

主催：日本車椅子バスケットボール連盟

(財)日本障害者スポーツ協会

後援：厚生労働省、文部科学省

東京都、テレビ朝日福祉文化事業団 他



●日本車椅子バスケットボール第7回ジュニア選手育成講習会🌸🌸 後援・助成

日時：平成22年8月26日(木)～29日(日)

場所：乗鞍青少年交流の家(岐阜県高山市)

主催：日本車椅子バスケットボール連盟強化指導部

●第14回電動車椅子サッカー関東大会

🌸🌸 後援・助成

比較的重度の身体障害を持つ方の団体競技として1982年に大阪で考案された電動車椅子サッカーは、体育館のバスケットボールコートを使用して、直径約32cmのボールを使い、1チーム4名(1名はゴールキーパー)で行われます。今大会には12チームが出場し、選手たちは「手・足・口・あご」など十人十色のハンドリングで電動車椅子を巧みに操り、ディビジョン1、2に分かれて試合を行いました。ディビジョン1がレインボー・ソルジャー、ディビジョン2が東京M.F.C.ゴール電・ファイアーズが優勝しました。

日時：平成22年9月18日(土)

場所：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール(横浜市)

主催：関東ブロック電動車椅子サッカー協会

後援：神奈川県、横浜市健康福祉局、神奈川県教育委員会

横浜市体育協会、テレビ朝日福祉文化事業団 他





石川遼が🏇松坂大輔が🏈 新しい寄付の形！

ゴルフ界のプリンス石川遼選手が、東日本大震災の被災者支援のために今シーズンの賞金全額を寄付すると発表しました。さらに、バーディーを1つとるごとに10万円を追加するといいます。「海外生活体験の旅」でシアトルで対面出来たレッドソックスの松坂大輔選手は、三振を取るごとに500ドルをレッドソックス財団に寄付し、恵まれない子どもたちのためのプログラムを支援するチャリティー活動をしています。そのほかソフトバンクの和田毅選手は、公式戦で1球投げるごとに10本のワクチンを寄付しています。元阪神タイガースの赤星憲広選手は盗塁する度に車椅子を寄付、引退後も続けています。日本ハムのダルビッシュ投手は公式戦1勝ごとに10万円を寄付する基金を設立しました。ヤクルトの宮本慎也選手は、公式戦1安打につき1万円を日本盲導犬協会へ、ゴルフの上田桃子選手も1バーディーごとに5千円、協賛企業からも支援を募り盲導犬普及啓発活動などに寄付しています。

これらの寄付は、自分の目標を達成することが寄付に繋がるということでも素敵な寄付といえます。日本では匿名で寄付するケースも多いですが、スポーツ選手たちの新たな寄付の形は、「自己実現型寄付」とでもいうのか、自分の努力が実を結ぶと、別の誰かが微笑むことを想像できるモチベーションも上がる素晴らしいものです。寄付する側は、売名行為ととられないだろうか、周囲から陰口を言われるかもなどと躊躇するケースが少なくないといいます。ですが、子どものころから「テストで90点以上を取ったら盲導犬に寄付してあげようね。」などと教育すれば、自己実現と寄付が繋がる良い相互作用が生まれるのではないのでしょうか。（くれぐれも、赤点を取ったら千円という罰金型にはしないように。）

今回の大震災での寄付はもちろんですが、福祉活動等にも興味を持っていただき、何か良いことがあったらその喜びを少し分けて寄付貯金箱に入れてみる。そしてまとまったところで関心のある活動をしている団体に寄付をする、個人でもそんなことができると良いでしょう。近年、企業のCSR活動が重要視されるようになりました。ボランティアをされる方も増えています。「私に出来ること。」こうした新しい寄付の形は個人の社会貢献活動をさらに広げていくことでしょう。

●第12回 ウィルチェアーラグビー日本選手権大会 後援・助成

ウィルチェアーラグビーは、四肢麻痺者等（脊髄損傷や四肢の切断、脳性麻痺等で四肢に障害を持つ者）がチームスポーツを行う機会を得るために1977年カナダで考案された車椅子による国際的なスポーツです。障害の程度によりそれぞれの持ち点が付けられ、重い方0.5点から軽い方3.5点まで0.5点刻みの7段階に分かれ、1チーム4人で持ち点の合計が8点以下で構成されます。ハードな競技に耐え得る専用の車椅子を使用し、バスケットボール用のコートで、ボールをパスまたはひざの上に置きゴールまで運びます。今大会は韓国選手権の優勝チームを招聘しての「第1回国際交流大会」を兼ね、国内各リーグ予選を勝ち抜いたトップ8チームとのトーナメントとなりました。決勝戦は前年と同チーム同士の戦いとなり、再延長戦までもつれ込む白熱した試合が展開されました。結果は「Okinawa Hurricanes」（沖縄）が「BLITZ」（東京）を63対62で下し初優勝を成し遂げました。



日時：平成22年12月10日（金）～12日（日）

場所：千葉ポートアリーナ（千葉市）

主催：日本ウィルチェアーラグビー連盟

後援：千葉市、テレビ朝日福祉文化事業団、

日本パラリンピック委員会、（財）日本障害者スポーツ協会

★その他の事業

●第4回 全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ戦 後援・助成

日時：平成22年3月28日（日）～8月29日（日）全8回

場所：新荒川大橋球場（北区）他 主催：全東京ろう社会人軟式野球連盟

●第35回 全日本ろう社会人軟式野球選手権大会 後援・助成

日時：平成22年10月9日（土）～11日（月）

場所：さいたま市市営大宮球場、出版健保グラウンド

●第25回 記念全日本視覚障害者柔道大会 後援・助成

日時：平成22年11月7日（日） 場所：講道館（文京区）

主催：日本視覚障害者柔道連盟

後援：厚生労働省、全国盲学校長会、テレビ朝日福祉文化事業団 他



●第26回 DPI (障がい者インターナショナル) 日本会議全国集会 in 愛知 🌸🌸 後援・助成

日時：平成22年6月12日(土)、13日(日)

場所：名古屋国際会議場(名古屋市熱田区) 参加者：500人

主催：NPO 法人 DPI 日本会議

第26回 DPI 日本会議全国集会 in 愛知実行委員会

後援：内閣府、外務省、厚生労働省、文部科学省ほか多数

●発達障がいを持つ子ども達のためのキャンプ

🌸🌸 後援・助成

日時：平成22年7月23日(金)～26日(月)

場所：ボーイスカウト日本連盟山中野営場(山梨県南都留郡)

●小児糖尿病児サマーキャンプ

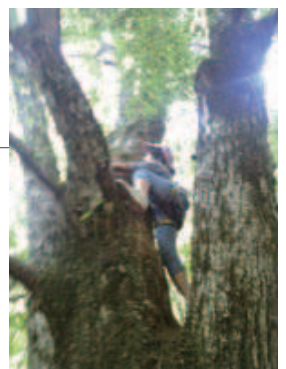
🌸 助成

日時：1期 平成22年8月1日(日)～6日(金)

2期 平成22年8月7日(土)～12日(木)

3期 平成22年8月13日(金)～17日(火)

場所：福島県霊山トレーニングセンター(福島県伊達市)



●第33回 わらじの会 夏合宿

🌸 助成

日時：平成22年8月27日(金)～29日(日)

場所：埼玉県秩父小鹿野温泉旅館(埼玉県秩父郡小鹿野町)

●第27回 高校生の手話によるスピーチコンテスト

🌸🌸 後援名義

日時：平成22年8月28日(土)

場所：東京・有楽町朝日ホール(千代田区)

主催：(財)全日本ろうあ連盟、朝日新聞社

(社福)朝日新聞厚生文化事業団

後援：厚生労働省、文部科学省

テレビ朝日福祉文化事業団 他



●第48回 わたしたちが創る展

🌸🌸 後援名義

日時：平成22年12月6日(月)～12月10日(金)

場所：JR 東京駅丸の内北口地下 動輪の広場(千代田区)

主催：(財)鉄道弘済会、(社福)東京都社会福祉協議会

特別協力：(株)石原プロモーション



●第 58 回 全国盲人福祉施設大会

 後援名義

日時：平成 22 年 6 月 3 日 (木) ～ 4 日 (金) 場所：ユアーズホテル フクイ (福井県福井市)
主催：(社) 日本盲人社会福祉施設協議会

●わんぱくクラブ育成会「原田真ニアコースティックコンサート」 後援名義

日時：平成 23 年 1 月 29 日 (土) 場所：世田谷区民会館 (世田谷区)

●はーとふるメッセ・オブ・ザ・イヤー 授賞式

 後援名義

日時：平成 23 年 3 月 5 日 (土) 場所：幕張メッセ国際会議場 (千葉県幕張市)
主催：千葉県障害者就労事業振興センター

●第 13 回 土と色 – ひびきあう世界 – 世田谷展

 後援名義

日時：平成 22 年 11 月 17 日 (水) ～ 21 日 (日)
場所：世田谷美術館 区民ギャラリー (世田谷区)

●第 17 回 エンジェルテニスカップ in 東京

 物品助成

日時：平成 22 年 4 月 17 日 (土) 場所：大井ふ頭中央海浜公園 (品川区)

★一般福祉

●第 59 回 東京都社会福祉大会

 協賛名義

日時：平成 22 年 12 月 21 日 (火) 場所：東京都庁第一本庁舎 5F 大会議場
主催：東京都、(社福) 東京都社会福祉協議会、(社福) 東京都共同募金会

●リレー・フォー・ライフ ジャパン in 東京 2010

 協賛・助成

日時：平成 22 年 10 月 9 日 (土) ～ 10 日 (日) 場所：都立潮風公園 (品川区)
主催：リレー・フォー・ライフ東京実行委員会、日本対がん協会

●第 2 回 環境福祉シンポジウム

 後援名義

日時：平成 22 年 9 月 28 日 (火) 場所：浜離宮朝日ホール (中央区)
主催：(社福) 朝日新聞厚生文化事業団、朝日新聞社



その他の事業報告等

◎東日本大震災被災者支援

2011年3月11日（金）、宮城県三陸沖で国内観測史上最大、世界最大級になるM 9.0の地震が起きました。地震と地震に伴う大津波、さらに火災により多くの命と家屋が失われました。さらに、その後も静岡県で震度6強を観測するなど大きな地震・余震が相次ぎ、被害は岩手、宮城、福島をはじめ、関東地方、さらに静岡、山梨まで広がりました。また想定を超えた地震と津波の影響で福島原子力発電所にも被害がでて、現在も予断の許さない状況が続いています。これまでの死者・行方不明者は2万7,456人（4月8日現在 警察庁発表）、避難生活をしている人は一時最大50万人を超えました。ドラえもん募金は通信事情の状況も鑑み、従来の電話を使う形式を取りやめ銀行振り込み形式で行いました。

東日本大震災被災者支援 ドラえもん募金

【実施期間】 平成23年3月14日～

（3月31日現在）

〈明 細〉

〈金 額〉

ドラえもん募金（銀行振込み）

1,386,733,549円

ドラえもん募金（アトリウム募金箱）

1,425,806円

総 額

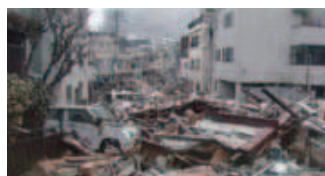
1,388,159,355円

※ドラえもん募金で集まったお金は、当事業団を通じて、右記の通り寄託いたしました。

※NPO法人ジャパンプラットフォームはNGO、経済界、政府が共同で設立したシステムです。現在32のNGOが参加しています。東日本大震災でも災害現場に直ちにNGOが入り、救援活動を実施しました。

※ドラえもん募金は継続中で、以降の寄託先は、ホームページ並びに次年度の年報で報告いたします。

※ご協力いただきました皆様に、厚く御礼申し上げます。



【寄託先】

月日	寄託先	金額
平成 23 年 3 月 22 日 / 4 月 1 日	岩手県災害義援金募集委員会	1 億円 / 1 億円
3 月 22 日 / 4 月 1 日	宮城県災害対策本部	1 億円 / 1 億円
3 月 22 日 / 4 月 1 日	福島県災害対策本部	1 億円 / 1 億円
3 月 22 日 / 4 月 1 日	日本赤十字社	1 億円 / 2 億円
3 月 22 日 / 4 月 1 日	NPO 法人ジャパン・プラットフォーム	2 億円 / 1 億円
4 月 1 日	国連 WFP 協会	5 千万円
	寄託総額	12 億 5 千万円

● ハイチ大地震 被災者支援義援金

2010 年 1 月 12 日(日本時間 13 日)に起きたハイチ大地震について、テレビ朝日では募金活動を行いました。ダイヤル Q2 利用の募金金額が最終確定し寄託しました。

義援金明細金額

(最終確定)

テレビ朝日ドラえもん募金明細 (平成 22 年 1 月 15 日 ～ 2 月 14 日 31 日間)	金額
ダイヤル Q2	41,959,820 円
テレビ朝日アトリウム設置募金箱	80,647 円
テレビ朝日	2,000,000 円
(株)藤子・F・不二雄プロ	1,000,000 円
シンエイ動画	1,000,000 円
募金総額	46,040,467 円
一般の方々からの義援金	329,001 円
義援金総額	46,369,468 円

【寄託先】

月日	寄託先	金額
平成 22 年 2 月 2 日、3 月 30 日	国連 WFP 協会	15,000,000 円
2 月 3 日、 3 月 26 日、8 月 30 日	日本赤十字社	16,369,468 円
2 月 5 日、3 月 17 日	ジャパン・プラットフォーム	15,000,000 円
	寄託総額	46,369,468 円

● その他義援金

一般の方々からの下記義援金についてご報告します。

イタリア・ローマ義援金 1,000 円
チリ義援金 1,000 円
中国地震義援金 1,000 円

月日	寄託先	金額
平成 22 年 8 月 30 日	日本赤十字社	3,000 円



●平成 22 年度 事業一覧

NO	事業名	対象	名義
1	児童養護施設で生活する高校生のための海外生活体験の旅 in シアトル	児童	主催
2	児童養護施設児童対象の第 4 回演劇ワークショップ「Re-Action」	児童	主催
3	江戸っ子杯争奪東京都児童福祉施設競技大会 2010 野球の部	児童	共催
4	第 60 回 児童福祉施設文化祭	児童	後援・助成
5	第 52 回慈彩会展	児童	後援・助成
6	第 56 回 全国里親大会	児童	共催・助成
7	児童福祉施設職員のためのワークショップ	児童	主催・助成
8	プロ野球ヤクルト戦入場券プレゼント	児童	助成
9	子どもへの暴力防止プロジェクト助成	児童	後援・助成
10	こどもの国 ジャンボカルタ取り大会・どんど焼き	児童	助成
11	第 56 回 関東甲信越静里親研究協議会かわさき大会	児童	後援名義
12	第 60 回 社会を明るくする運動「匠に学ぶ ワークショップ in 東京藝術大学」	児童	後援名義
13	「憩いの家」バザー	児童	後援名義
14	日本児童養護実践学会 第 3 回 研究大会	児童	後援名義
15	第 4 回「家族週間」子育て童謡コンサート	児童	後援名義
16	子ども芸術ふれあい事業「アート アニメーション フェスティバル」	児童	後援・助成品
17	高齢者施設訪問（1 年間で 12 施設訪問）	高齢者	主催
18	けやき坂カルチャー教室（10 回開催）	高齢者	主催
19	第 12 回 クプナ・フラ・フェスティバル	高齢者	共催・助成
20	第 3 回 国際シニア合唱祭「ゴールドンウェーブ in 横浜」	高齢者	後援・助成
21	ファミリー童謡チャリティコンサート（3 月分中止）	高齢者	後援・助成
22	第 31 回 MC コンテスト	高齢者	後援名義
23	Tulevan Concerto	障害者	主催
24	心身障害者の小規模作業所等への設備助成	障害者	助成
25	第 34 回 ハンディスキー親善大会	障害者	共催
26	第 40 回 全国身体障害者スキー大会	障害者	後援・助成
27	第 26 回 身体障害者スキー大会関東大会（中止）	障害者	後援・助成
28	第 33 回 車椅子バスケットボール秋季大会	障害者	主催・助成
29	内閣総理大臣杯争奪第 39 回 日本車椅子バスケットボール選手権大会	障害者	共催・助成
30	日本車椅子バスケットボール連盟 第 7 回 ジュニア選手育成講習会	障害者	後援・助成
31	第 4 回 全東京ろう社会人軟式野球 TD リーグ戦	障害者	後援・助成
32	第 35 回 記念全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	障害者	後援・助成
33	第 14 回 電動車椅子サッカー関東大会	障害者	後援・助成
34	第 25 回 記念全日本視覚障害者柔道大会	障害者	後援・助成
35	第 12 回 ウィルチェアラグビー日本選手権大会	障害者	後援・助成
36	第 26 回 DPI 日本会議全国集会	障害者	後援・助成
37	発達障がいを持つ子ども達のためのキャンプ	障害者	後援・助成
38	小児糖尿病児サマーキャンプ	障害者	助成
39	第 33 回 わらじの会 夏合宿	障害者	助成
40	第 27 回 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	障害者	後援名義
41	わたしたちが創る展	障害者	後援名義
42	第 58 回 全国盲人福祉施設大会	障害者	後援名義
43	わんぱくクラブ育成会	障害者	後援名義
44	はーとふるメッセ・オブ・ザ・イヤー 2010	障害者	後援名義
45	第 13 回 土と色ーひびきあう世界ー世田谷展	障害者	後援名義
46	第 17 回エンジェルテニスカップ in 東京	障害者	助成
47	第 59 回東京都社会福祉大会	一般	協賛名義
48	リレー・フォー・ライフジャパン in 東京 2010	一般	協賛・助成品
49	環境福祉シンポジウム	一般	後援名義

◎平成22年度 収支報告

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

科 目	金 額
収入の部	
	単位：円
寄付金収入	35,303,634
基本財産基金利子収入	0
運用財産基金利子収入	672,956
運用財産利子収入	28,563
当期収入合計（A）	36,005,153
前期繰越額（B）	63,321,125
収入合計（A+B）	99,326,278
支出の部	
高齢者福祉費	4,205,067
心身障害者福祉費	12,035,937
児童福祉費	9,199,953
広報費	1,687,321
災害援護活動・支援費	34,850
事務費	1,940,307
人件費	8,366,494
租税公課	1,000
当期支出合計（C）	37,470,929
当期収支差額（A-C）	△ 1,465,776
次期繰越額（A+B－C）	61,855,349

その他



◎ 平成 22 年度 寄付者のご報告

企業・団体・個人の皆様からご寄付をいただきました。また当事業団では、テレビ朝日の受付やカフェなどに募金箱を置き、事業団の活動への寄付を募るとともに認知度アップを図ることにしました。ご協力に心からお礼申し上げます。

寄付金合計 35,303,634 円

★一般寄付（敬称略・50 音順）

募金箱 25,021 円（テレビ朝日受付、グッズショップ、cafe シェマディに設置）

個人… 3 人 岩本朗氏、高井正憲氏、匿名 1 人

団体… 48 団体

アラコム(株)、(株)大塚商会、(株)関電工、九州巨人軍愛好会、熊川小学校児童会（福井県）、三建設備工業(株)、(株)シービーエス、城南質屋協同組合、新日本プロレスリング(株)、(株)セルメスタ、(株)損保ジャパン、中央労働金庫、ダイダン(株)、(株)竹中工務店、千葉県障害者就労事業振興センター、(株)東京サウンドプロダクション、東京総合警備保障(株)、東京原宿ライオンズクラブ、東京六本木ライオンズクラブ、東京労働者福祉協議会、日本興亜損害保険(株)、日本歯科衛生協会、日本ビューティシャン フットサル協会、日本郵政グループ労働組合、(株)俳優座劇場、(公財)原田積善会、(株)藤子・F・不二雄プロ、富士ゼロックス(株)、(株)三井住友海上火災保険、(株)ミヤギ、横浜エレベーター(株)東京支店、リゾートトラスト(株)

(株)静岡朝日テレビ、(株)テレビ朝日、テレビ朝日映像(株)、(株)テレビ朝日サービス、(株)テレビ朝日ミュージック、(株)ビデオ・パック・ニッポン、(株)フレックス、(株)日本ケーブルテレビジョン、シンエイ動画(株)、(株)放送技術社、(株)テレビ朝日リビング（現:(株)ロッピングライフ）、(株)テイクシステムズ、(株)トラストネットワーク、(株)テレビ朝日ベスト、(株)テレビ朝日データビジョン、(株)文化工房

★物資などのご協力 2 団体

(株)ドクターシーラボ、(株)テレビ朝日

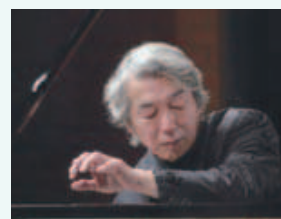
第 3 回トゥレヴァン コンチェルトのご案内 ♪♪

今年は、第 1 回から登場いただいている左手のピアニスト舘野泉さんと、ヴァイオリニスト川畠成道さんをお招きしてコンサートを行います。今年も障害者の方々を優先的にご招待します。観覧希望の方は 8 月頃にお問合せください。

日時：平成 23 年 10 月 29 日（土） 時間未定

場所：渋谷 C.C. レモンホール（渋谷区）

出演：舘野泉氏、川畠成道氏 ほか



● テレビ朝日福祉文化事業団 理事・評議員（平成 23 年 3 月 31 日現在）

役 職 名	氏 名	職 業
理事長・評議員	君和田 正夫	株式会社テレビ朝日 代表取締役会長
副理事長・評議員	早河 洋	株式会社テレビ朝日 代表取締役社長
理事・評議員	石野 清治	社会福祉法人同愛記念病院財団 会長
理事・評議員	高橋 利一	社会福祉法人至誠学舎立川 理事長 法政大学 名誉教授
理事	山崎 哲男	日比谷見附法律事務所 弁護士
理事	岩尾 總一郎	国際医療福祉大学副学長・医学博士
評議員	岩崎 浩三	新潟医療福祉大学客員教授 国際ソーシャルワーカー連盟 日本ソーシャルワーカー協会 常任理事
評議員	岸田 晟	財団法人日本民生文化協会 理事長
評議員	松木 康夫	新赤坂クリニック名誉院長 医師
評議員	梅木 孝夫	広友ホールディングス株式会社 代表取締役社長 東京六本木ライオンズクラブ
評議員	宮沢 成實	社会福祉法人東京都社会福祉協議会 総務部企画担当
評議員	山田 雄一	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
評議員	森岡 信夫	株式会社テレビ朝日 経理局長
評議員	根本 保	元株式会社ビーエス朝日 常勤監査役
監事	平田 和子	平田和子税理士事務所 税理士
監事	若穂井 透	日本社会事業大学教授 専門職大学院研究科長 弁護士

● 事業団が加盟する福祉団体

- ・（社福）東京都社会福祉協議会
- ・（財）助成財団センター
- ・高齢社会 NGO 連携協議会



【寄付のお願い】



テレビ朝日福祉文化事業団の活動は、皆様のご寄付によって支えられています。当事業団へのご寄付は、特定寄付金となり、寄付金控除の対象となります。

また、香典返しの一部を社会福祉事業に、とのお考えをお持ちの方々からのご寄付を承っています。ご意思のある方はご連絡をいただければ幸いです。

【ご寄付の方法】

●郵便振替

口座番号 00110 - 6 - 761778

口座名 (加入者名)「こころの樹」

※通信欄に「寄付金」と記入、事業指定がある場合はご記入ください。

●現金書留で郵送

〒106-8001 東京都港区六本木 6-9-1

テレビ朝日福祉文化事業団

※連絡先を同封してください。受領書をお送りいたします。

●銀行口座

銀 行：みずほ銀行 六本木支店

口 座 名：社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団

カ ナ 名：(フク) テレビアサヒフクシブンカジギョウダン

口座番号：普通 1708970

※ 銀行振込希望の方は、事務局（03-6406-2195）へご連絡ください。

※また、当事業団が実施する特定の事業へ指定される場合は事務局へお問い合わせください。

【寄付金控除について】

1. 寄付者が個人の場合

寄付金から2千円を差し引いた金額が寄付者の年間所得から控除されます。限度額は総所得金額（年間所得）などの40%相当額です。

次のいずれかの低い金額—2千円＝寄付金控除額

イ. 特定寄付金の額 ロ. その年の総所得金額の40%相当額

※この優遇を受ける場合、確定申告で当事業団が発行する受領書を税務署に提出してください。

※寄付金控除の詳細は、お近くの税務署、税理士にご確認ください。

※ご寄付の用途について

ご寄付は、事業団が実施する児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉のさまざまな社会福祉事業へ充てさせていただきます。

テレビ朝日福祉文化事業団ホームページ



<http://www.tv-asahi.co.jp/fukushi/>

テレビ朝日福祉文化事業団 事業報告

2010 年度（平成 22 年度）

年報 こころの樹

発行人 阿部幸雄

2011 年（平成 23 年）5 月 20 日発行

社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団

〒106-8001 東京都港区六本木 6-9-1 森タワー 16 F

TEL 03-6406-2195、FAX 03-3405-3797

<http://www.tv-asahi.co.jp/fukushi/>

E-mail: fukushi@tv-asahi.co.jp

※文中の役職等は、その時点での表記と致しました。

※無断転載は禁じます。

All reserved tv asahi welfare foundation



tv asahi welfare foundation